英文解釈 L01 第 12 講 関係節の修飾先を見失わず読む

学習目標

先行詞と関係節内での関係詞の役割を対応させ、関係節の修飾範囲を正確に捉えられる。関係節を読み終えた後は主節の骨格へ戻り、英文全体を自然な日本語に訳せる。

S＝主語、V＝動詞の核、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾語・状況を表す語句。main は主節の骨格と名詞句全体の役割、inner は関係節内の役割を示す。〈〉は名詞のまとまり、〔〕は形容詞として働くまとまり、( )は副詞のまとまりを表す。V の核には下線を付ける。

先行詞から関係節を読み主節へ戻る

関係節は名詞の説明、主節は文全体の骨格

英文を読んでいると、主語となる名詞の直後に関係節が入り、文全体の述語がなかなか現れないことがある。このとき、関係節の中の動詞を主節の述語と取り違えると、文全体で何を述べているのか分からなくなる。

関係節が説明する名詞を**先行詞**という。まず先行詞を確かめ、関係節がどこからどこまでその名詞を説明するかを読み取る。そのうえで、関係節を含む名詞句全体が、外側の主節で主語・目的語などのどの役割を担うかを確認する。

主節の主語を説明する場合

語注： community center：地域の交流施設

〈〈The woman〉〔who teaches English (at 〈the community center〉)〕〉 takes 〈the bus〉 (to work) (every morning).
S V O M M

S “The woman who teaches English at the community center” / 主節 S / 先行詞は woman。who から center までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “takes” / 主節 V / 関係節の終了後、主節の述語に戻る。
O “the bus” / 主節 O
M “to work” / 行き先 / takes the bus に結び付く。
M “every morning” / 頻度

〈〈The woman〉〔who teaches English (at 〈the community center〉)〕〉 takes 〈the bus〉 (to work) (every morning).
S V O M

S “who” / 関係節 S / 主格 who 自身が主語。先行詞 woman に対応する。
V “teaches” / 関係節 V
O “English” / 関係節 O
M “at the community center” / 教える場所 / 関係節は center で終わり、次の takes から主節へ戻る。

意味： 地域の交流施設で英語を教えている女性は、毎朝バスで通勤する。

読み方： 先行詞は The woman であり、who teaches English at the community center がその女性を説明する関係節である。who 自身が関係節内の主語として働き、teaches がその述語となるため、who の後ろに別の主語を補う必要はない。

©ミライコーチング

関係節は center で終わり、その後の takes から主節の述語が始まる。つまり、The woman who teaches English at the community center 全体が主節の主語であり、その女性について takes the bus to work every morning と述べている。teaches と takes はそれぞれ別の節の述語なので、読み進める際には関係節をいったん読み終えてから主節に戻ることが大切だ。

主節の目的語を説明する場合

語注： younger readers：年少の読者

〈The museum〉 sells
S V

〈books 〔which explain 〈the history 〔of 〈the city〉〕〉 (in 〈simple language〉) (for
O

〈younger readers〉)〕〉.
O

S “The museum” / 主節 S
V “sells” / 主節 V / 博物館が本を販売する。
O “books which explain the history of the city in simple language for younger readers” / 主節 O / 先行詞は books。which から readers までの関係節を含む名詞句全体が目的語。

〈The museum〉 sells 〈books 〔which explain 〈the history 〔of 〈the city〉〕〉
S V O

(in 〈simple language〉) (for 〈younger readers〉)〕〉.
M M

S “which” / 関係節 S / 主格 which 自身が主語。先行詞 books に対応する。
V “explain” / 関係節 V
O “the history of the city” / 関係節 O / 説明する内容は、その都市の歴史。
M “in simple language” / 説明の方法
M “for younger readers” / 対象読者 / 年少の読者向けの説明と読む。関係節は readers まで続く。

意味： その博物館は、年少の読者向けにその都市の歴史を分かりやすい言葉で説明する本を販売している。

読み方： この文の主節は The museum sells … という骨格を持ち、sells の目的語の中心は books である。books を先行詞として、which explain the history of the city in simple language for younger readers という関係節が続く。関係節内では which が主語、explain が述語となり、どのような本なのかを説明している。

関係節は文末の readers まで続き、books とその説明全体が主節の目的語を構成する。主節の述語は sells、関係節内の述語は explain であり、両者の働きは異なる。このように、先行詞と関係節をひとまとまりにしてから、主節の動詞との関係を確かめると、修飾の内容を落とさず全文を訳せる。

関係節を読むときは、単に関係詞の近くにある名詞を選ぶのではなく、**どの名詞を説明しているか、関係詞自身が節内でどの役割を担うか、説明を含む名詞句全体が主節でどう働くか**を順に確かめる。

関係節内の主語と目的語を対応させる

先行詞が関係節の中で果たす役割を確かめる

関係節を正確に読むには、どの名詞を説明しているかだけでなく、その先行詞が関係節の中でどのような役割を担うかを確かめる必要がある。既習の関係代名詞には主格と目的格があり、主格は関

係節内の主語、目的格は動詞などの目的語として働く。どちらの場合も、関係節全体が先行詞を説明することと、関係代名詞が節内で担う役割を分けて考える。

主格：関係代名詞自身が主語になる

語注： school festival：文化祭／work together：一緒に作業する

〈〈The students〉〔who design 〈posters 〔for 〈the school festival〉〕〉〕〉 often
S M

work together (in 〈the art room〉).
V M M

S “The students who design posters for the school festival” / 主節 S / 先行詞は students。who から festival までの関係節を含む名詞句全体が主語。
M “often” / 頻度 / often は主節の work を修飾する。
V “work” / 主節 V / 動詞の核は work。関係節の終了後、主節の述語へ戻る。
M “together” / 作業の様子
M “in the art room” / 作業の場所

〈〈The students〉〔who design 〈posters 〔for 〈the school festival〉〕〉〕〉 often
S V O M

work together (in 〈the art room〉).
S “who” / 関係節 S / 主格 who 自身が主語。先行詞 students に対応する。
V “design” / 関係節 V
O “posters” / 関係節 O / デザインする対象は posters。
M “for the school festival” / ポスターの用途 / 文化祭用のポスターと読む。関係節は festival で終わる。

意味： 文化祭のポスターをデザインする生徒たちは、よく美術室で一緒に作業する。

読み方： 先行詞は The students であり、who design posters for the school festival がその生徒たちを説明する関係節である。関係節内では who 自身が主語、design が述語であり、「その生徒たちがポスターをデザインする」という関係が成立する。who の後ろに別の主語を補って読む必要はない。

関係節は festival で終わり、続く often work together in the art room から主節の述語へ戻る。The students と関係節を合わせた名詞句全体が主節の主語であり、主節の動詞の核は work、often はその頻度を表す副詞、関係節内の述語は design である。関係節でどの生徒たちかを捉えたうえで、その生徒たちについて主節が何を述べているかを読む。

©ミライコーチング

解説

目的格：先行詞が関係節内の動詞の対象になる

語注： display：掲示する／on the classroom wall：教室の壁に

〈The teacher〉 will display
S V

〈〈the posters〉 〔that 〈the students〉 designed (for 〈the school festival〉)〕〉
O

(on 〈the classroom wall〉).
M

S “The teacher” / 主節 S
V “will display” / 主節 V / will display はこれからの掲示を表す。
O “the posters that the students designed for the school festival” / 主節 O / 先行詞は posters。that から festival までの関係節を含む名詞句全体が目的語。
M “on the classroom wall” / 掲示場所 / 本教材では will display に結び付ける。designed に結ぶ別読では関係節が wall まで続く。

〈The teacher〉 will display 〈〈the posters〉 〔that 〈the students〉 designed
O S V

(for 〈the school festival〉)〕〉 (on 〈the classroom wall〉).
M

O “that” / 関係節 O / 目的格 that は designed の対象。先行詞 posters に対応する。
S “the students” / 関係節 S
V “designed” / 関係節 V / designed は過去の行為。
M “for the school festival” / デザインの目的 / 文化祭のためにデザインしたと読む。採用読みでは関係節は festival で終わる。

意味： その教師は、生徒たちが文化祭のためにデザインしたポスターを教室の壁に掲示するだろう。

読み方： 先行詞は the posters であり、that the students designed for the school festival がそのポスターを説明する関係節である。関係節内では the students が主語、designed が述語であり、目的格の that は designed の対象として先行詞 the posters に対応する。つまり、「生徒たちがポスターをデザインした」という関係を読み取る。

本教材では、関係節は festival で終わり、on the classroom wall は主節の will display に結び付くと読む。主節の主語は The teacher、述語は will display であり、関係節を含む the posters 全体がその目的語である。ただし、on the classroom wall を関係節内の designed に結び付ける読みも可能であり、その場合は関係節が wall まで続く。designed は過去の行為を表す一方、will display はこれからの行為を表しているため、すでに掲示されたという意味にはしない。

主格と目的格の違いは、関係代名詞の直後の語だけで機械的に決めるのではなく、関係節内の主語・述語・目的語の関係から判断する。今回の who は that に、目的格の that は which に置き換えることもできるが、読みの中心は関係代名詞の形の暗記ではない。先行詞と節内の役割を対応させ、関係節の終わりを見定めて主節へ戻ることが重要だ。

©ミライコーチング

場所や時の関係を構造から読む

関係副詞は、先行詞と節内の場所・時を結び付ける

関係代名詞では、先行詞が関係節内の主語や目的語に対応することを確認した。一方、関係副詞の where や when は、先行詞が関係節内の動作・状態とどのような場所や時の関係にあるかを示す。関係副詞の後ろにある実際の主語・述語を確かめ、先行詞との関係を読み取ることが重要だ。

where：先行詞を場所として捉える

語注： put A somewhere：A をある場所に置く／next to ～：～の隣に

〈〈The room〉〔where〈the children〉(S) put〈their bags〉(before class)〕〉 is (V)

(next to〈the library〉) (M).

S “The room where the children put their bags before class” / 主節 S / 先行詞は room。where から class までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “is” / 主節 V / 関係節が class で終わり、主節の述語に戻る。
M “next to the library” / 場所の補部 / 部屋が図書館の隣にあることを表す。

〈〈The room〉〔where (M)〈the children〉(S) put (V)〈their bags〉(O) (before class) (M)〕〉 is (next to 〈the library〉).

M “where” / 関係節内の場所 / where は先行詞 room に対応し、put に必要な場所の情報を担う。
S “the children” / 関係節 S
V “put” / 関係節 V / この put は置く対象と場所を必要とする。
O “their bags” / 関係節 O
M “before class” / 置く時 / 授業前を表す。関係節は class で終わる。

意味： 子どもたちが授業前にかばんを置く部屋は、図書館の隣にある。

読み方： 先行詞は The room であり、where the children put their bags before class がその部屋を説明する関係節である。関係節内では the children が主語、put が述語、their bags が目的語となる。where は先行詞 The room と「子どもたちがかばんを置く場所」という関係を結び付けている。

ここで重要なのは、put はこの文で「何をどこに置くか」を表す動詞だという点だ。where は場所の関係を示し、put の意味を成立させるために必要な場所の情報を担っている。したがって、関係副詞の働きを修飾語 M として整理する場合でも、常に取り除ける情報だと考えてはいけない。

関係節は class で終わり、続く is next to the library が主節の述語となる。The room と関係節を合わせた名詞句全体が主節の主語であり、「その部屋が図書館の隣にある」という文全体の骨格に戻って読む。

解説

when：先行詞を時として捉える

語注： public library：公共図書館／on a sign：看板に／beside the entrance：入口のそばに

Visitors can find
S V

〈〈the year〉〔when 〈the town〉 opened 〈its first public library〉〕〉
O

(on 〈a sign 〔beside 〈the entrance〉〕〉).
M

S “Visitors” / 主節 S
V “can find” / 主節 V / can find は確認できるという可能性を表す。
O “the year when the town opened its first public library” / 主節 O / 先行詞は year。when から library までの関係節を含む名詞句全体が目的語。
M “on a sign beside the entrance” / 確認する場所 / 本教材では can find に結び付ける。入口のそばにある看板を指す。

Visitors can find 〈〈the year〉〔when 〈the town〉 opened
M S V

〈its first public library〉〕〉 (on 〈a sign 〔beside 〈the entrance〉〕〉).
O

M “when” / 関係節内の時 / when は先行詞 year に対応し、図書館を開いた年を示す。
S “the town” / 関係節 S
V “opened” / 関係節 V / 町が図書館を開設した過去の行為。
O “its first public library” / 関係節 O / その町で最初となる公共図書館。first は library を含む名詞句を修飾する。

意味： 訪問者は、その町が町で最初となる公共図書館を開いた年を、入口のそばにある看板で確認できる。

読み方： 先行詞は the year であり、when the town opened its first public library がその年を説明する関係節である。関係節内では the town が主語、opened が述語、its first public library が目的語となる。when は、この図書館を開いた出来事が先行詞の表す年に起こったという時の関係を示している。

opened は目的語を伴って「開設した」という内容を表しており、時を示す情報がなくても、その動作自体は述べられる。しかし、この関係節では when が先行詞 the year と出来事の時を結び付けているため、その関係を無視して訳すことはできない。

関係節は library で終わり、その後の on a sign beside the entrance は主節の can find に結び付く。主節の主語は Visitors、述語は can find であり、関係節を含む the year 全体がその目的語となる。can find は「確認できる」という可能性を表すため、訪問者が実際にその年を確認したとまでは述べていない。

関係詞の形ではなく、節内での関係を根拠にする

where や when の働きは、関係節内の主語・目的語の代わりになる関係代名詞とは異なる。先行詞が場所を表す名詞であっても、関係節内でその名詞が動詞の目的語に対応するなら、場所を表すという理由だけで where を選ぶことはできない。

関係節を読む際は、先行詞の意味だけで判断せず、節内の主語・述語・必要な補部を確認し、場所や時の関係がどこに成立するかを見定める。そのうえで関係節の終わりを確定し、修飾の範囲と主節の骨格を保って全文を読む。

関係語のない目的格の基本形を読む

目的格の関係代名詞が見えなくても、修飾関係は残る

これまでは、関係代名詞が明示された関係節を読んできた。しかし、基本的な限定用法では、目的格の関係代名詞が省略されることがある。省略されても先行詞と関係節の意味関係は変わらないため、先行詞の後ろに続く語句の構造から修飾関係を見つけることが重要だ。

関係代名詞が明示された形

語注： recommend：勧める

〈〈The book〉〔that〈the teacher〉recommended〕〉is (on〈the table〉).
S　V　M

S “The book that the teacher recommended” / 主節 S / 先行詞は book。that から recommended までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “is” / 主節 V / 関係節が recommended で終わり、主節の述語に戻る。
M “on the table” / 場所の補部 / 本がテーブルの上にあることを表す。

〈〈The book〉〔that〈the teacher〉recommended〕〉is (on〈the table〉).
O　S　V

O “that” / 関係節 O / 目的格 that は recommended の目的語として先行詞 book に対応する。
S “the teacher” / 関係節 S
V “recommended” / 関係節 V / 先生が本を勧めた過去の行為。関係節は recommended で終わる。

意味： その先生が勧めた本は、テーブルの上にある。

読み方： 先行詞は The book であり、that the teacher recommended がその本を説明する関係節である。関係節内では the teacher が主語、recommended が述語となり、目的格の that は recommended の目的語として先行詞 The book に対応する。つまり、「先生がその本を勧めた」という関係が成立する。

関係節は recommended で終わり、その後の is on the table が主節の述語となる。The book と関係節を合わせた名詞句全体が主節の主語であり、先生が勧めた本について「テーブルの上にある」と述べている。

©ミライコーチング

解説

目的格の関係代名詞が省略された形

語注： recommend：勧める

〈〈The book〉〔〈the teacher〉 recommended〕〉 is (on 〈the table〉).
S V M

S “The book the teacher recommended” / 主節 S / 先行詞は book。the teacher から recommended までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “is” / 主節 V / 関係節が recommended で終わり、主節の述語に戻る。
M “on the table” / 場所の補部 / 本がテーブルの上にあることを表す。

〈〈The book〉〔〈the teacher〉 recommended〕〉 is (on 〈the table〉).
S V

S “the teacher” / 関係節 S / 先行詞 book の直後に実際の主語 the teacher が続く。
V “recommended” / 関係節 V / recommended の目的語は先行詞 book に対応する。目的格関係代名詞は原文に書かれていない。

意味： その先生が勧めた本は、テーブルの上にある。

読み方： この英文には関係代名詞が明示されていないが、先行詞は The book であり、the teacher recommended がその本を説明する関係節である。先行詞の直後に the teacher という主語と recommended という述語が続き、recommended の目的語に当たる内容が先行詞 The book に対応している。

ここでは、先行詞と関係節内の動詞の目的語との対応から、目的格の関係代名詞が省略された形だと分かる。recommended で関係節が終わった後は、is on the table という主節の述語へ戻る。The book the teacher recommended 全体を主節の主語として捉えれば、関係代名詞が見えなくても、明示された形と同じ意味で読める。

省略された形を読むときの判断

目的格の関係代名詞が省略された場合は、先行詞の後ろに現れる実際の主語と述語を確かめ、その動詞の目的語が先行詞に対応するかを考える。関係代名詞が書かれていないからといって、関係節が存在しないわけではない。また、以前に学んだ、基本動詞の目的語となる内容節で接続詞 that 自体を省略する形とは異なり、ここでは後続の関係節が先行詞を説明している。以前の形でも内容節全体が省略されるわけではない。

一方、主格の関係代名詞は、それ自身が関係節内の主語として働くため、今回の目的格と同じように無条件で省略できるわけではない。関係語が見えない英文でも、先行詞と節内の動詞の関係を確かめ、関係節を読み終えたところで主節へ戻ることが大切だ。

©ミライコーチング

1

語注： volunteer：ボランティア／collect litter：ごみを拾い集める／along the beach：海岸沿いで／parking lot：駐車場

The volunteers who collect litter along the beach meet in the parking lot every Sunday morning.

a. who で始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

例題 1 の解説

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The volunteers であり、関係節の範囲は who collect litter along the beach である。この関係節全体が volunteers を説明し、「海岸沿いでごみを拾い集めるボランティアたち」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では、主格の関係代名詞 who 自身が主語として働き、collect が述語、litter が目的語となる。who は先行詞 volunteers に対応するため、「ボランティアたちがごみを拾い集める」という関係が成立する。who の後ろに別の主語を補う必要はない。

関係節は beach で終わり、続く meet から主節の述語に戻る。The volunteers who collect litter along the beach 全体が主節の主語であり、meet in the parking lot every Sunday morning がその主語について述べる内容である。collect は関係節内の述語、meet は主節の述語なので、両者を取り違えないことが重要だ。

〈〈The volunteers〉〔who collect litter (along 〈the beach〉)〕〉 meet
　　S　　V

(in 〈the parking lot〉) (every Sunday morning).
　M　　M

S “The volunteers who collect litter along the beach” / 主節 S / 先行詞は volunteers。who から beach までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “meet” / 主節 V / 関係節が beach で終わり、主節の述語 meet に戻る。
M “in the parking lot” / 集合場所
M “every Sunday morning” / 頻度・時間 / 毎週日曜日の朝に集まるという習慣を表す。

〈〈The volunteers〉〔who collect litter (along 〈the beach〉)〕〉 meet (in 〈the parking lot〉) (every Sunday morning).
　　S　　V　　O　　M

S “who” / 関係節 S / 主格 who 自身が主語。先行詞 volunteers に対応する。
V “collect” / 関係節 V
O “litter” / 関係節 O / 拾い集める対象は litter。
M “along the beach” / ごみを集める場所 / 海岸沿いでの活動を表す。関係節は beach で終わる。

b. 全文和訳

直訳　海岸沿いでごみを拾い集めるボランティアたちは、毎週日曜日の朝、駐車場で集まる。

満点の訳　海岸沿いでごみ拾いをするボランティアたちは、毎週日曜の朝、駐車場に集合する。

どちらの訳も、関係節が volunteers を説明し、その名詞句全体が主節の主語になる関係を保っている。collect と meet は現在形で、every Sunday morning が繰り返しを表すため、文全体は習慣的な活動を述べている。特定の日曜日に実際に集合したという過去の出来事としては訳さない。

2

語注： studio：練習用のスタジオ／wooden floor：木製の床

The studio where the dancers practice every Saturday has large mirrors and a wooden floor.

a. where で始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

例題 2 の解説

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The studio の中心となる studio であり、関係節の範囲は where the dancers practice every Saturday である。この関係節全体が studio を説明し、「ダンサーたちが毎週土曜日に練習するスタジオ」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では the dancers が主語、practice が述語となる。where は主語や目的語の代わりではなく、先行詞 studio と「ダンサーたちが練習する場所」という関係を結び付けている。practice はこの文では目的語を伴わず、where が練習の行われる場所を示している。

関係節は Saturday で終わり、その後の has から主節の述語に戻る。The studio where the dancers practice every Saturday 全体が主節の主語であり、has large mirrors and a wooden floor がそのスタジオについて述べる内容である。every Saturday は関係節内の practice に結び付き、ダンサーたちが練習する頻度を表す。

〈〈The studio〉〔where 〈the dancers〉 practice (every Saturday)〕〉 has 〈〈large mirrors〉 and 〈a wooden floor〉〉.
S　V　O

S “The studio where the dancers practice every Saturday” / 主節 S / 先行詞は studio。where から Saturday までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “has” / 主節 V / 関係節が Saturday で終わり、主節の has に戻る。
O “large mirrors and a wooden floor” / 主節 O / 大きな鏡と木製の床という、and で結ばれた 2 つの名詞句。

〈〈The studio〉〔where 〈the dancers〉 practice (every Saturday)〕〉 has 〈〈large mirrors〉 and 〈a wooden floor〉〉.
M　S　V　M

M “where” / 関係節内の場所 / where は先行詞 studio に対応し、練習する場所を示す。
S “the dancers” / 関係節 S / 実際の主語は the dancers。
V “practice” / 関係節 V / この practice は目的語を伴わない。
M “every Saturday” / 練習の頻度 / every Saturday は practice に結び付く。関係節は Saturday で終わる。

©ミライコーチング

b. 全文和訳

直訳　そのダンサーたちが毎週土曜日に練習するスタジオは、大きな鏡と木製の床を備えている。

満点の訳　そのダンサーたちが毎週土曜日に練習するスタジオには、大きな鏡と木の床がある。

どちらの訳も、関係節が studio を説明し、その名詞句全体が主節の主語になる関係を保っている。practice は every Saturday とともに習慣的な活動を表し、has はスタジオの現在の設備を述べている。毎週土曜日に練習するという内容から、特定の土曜日の練習が実際に行われたとまでは読み取らない。

3

語注： painting：絵画、絵／colorful：色鮮やかな、色彩豊かな

The painting my friend bought at the market is very colorful.

a. 文中の関係代名詞が明示されていない関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

例題 3 の解説

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The painting の中心となる painting であり、関係節の範囲は my friend bought at the market である。この関係節全体が painting を説明し、「友人が市場で買った絵」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では my friend が主語、bought が述語となる。bought は「〜を買った」という意味の他動詞であり、その目的語に当たるものが先行詞 painting に対応している。ここでは目的格の関係代名詞が省略されているが、先行詞と関係節内の動詞の関係は変わらない。

関係節は market で終わり、続く is very colorful から主節の述語に戻る。The painting my friend bought at the market 全体が主節の主語であり、その絵について「とても色鮮やかだ」と述べている。また、at the market は関係節内の bought に結び付き、友人が絵を買った場所を表している。

〈〈The painting〉〔〈my friend〉 bought (at 〈the market〉)〕〉 is 〔very colorful〕.
S　V　C

S “The painting my friend bought at the market” / 主節 S / 先行詞は painting。my friend から market までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “is” / 主節 V / 関係節が market で終わり、主節の is に戻る。
C “very colorful” / 主節 C / very は colorful の程度を強め、絵の現在の状態を表す。

〈〈The painting〉〔〈my friend〉 bought (at 〈the market〉)〕〉 is 〔very colorful〕.
S　V　M

S “my friend” / 関係節 S / 実際の主語は my friend。先行詞 painting の直後から関係節が始まる。
V “bought” / 関係節 V / bought の目的語は先行詞 painting に対応する。目的格関係代名詞は原文に書かれていない。
M “at the market” / 購入場所 / at the market は bought に結び付く。関係節は market で終わる。

b. 全文和訳 直訳　私の友人が市場で買った絵は、とても色鮮やかだ。

満点の訳　友人が市場で購入した絵は、色彩がとても豊かだ。

どちらの訳も、関係節が painting を説明し、その名詞句全体が主節の主語になる関係を保っている。bought は過去の購入を表し、is は絵の現在の状態を表しているため、両者の時制を区別して訳す。また、市場は絵を購入した場所であり、絵が現在置かれている場所を示しているわけではない。

1

語注： mechanic：修理工／repair：修理する／local：地元の

The mechanic who repairs bicycles for local families works at a small shop near the station.

a. who で始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

2

語注： detailed instructions：詳しい指示／upcoming：今後予定されている／office move：オフィスの移転／employee：従業員／contain：〔手紙などが〕指示や情報を含む、指示や情報が記載されている

The letter that the manager sent to every employee contains detailed instructions for the upcoming office move.

a. that で始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

3

語注： workshop：工房／wooden toys：木製のおもちゃ／be open to visitors：訪問者に公開されている

The workshop where the artist makes wooden toys is open to visitors every Saturday afternoon.

a. where で始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

©ミライコーチング

4

語注： swimming pool：プール／open：開業する、開く／neighborhood：近隣地域

The day when the new swimming pool opened was important to many families in the neighborhood.

a. when で始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

5

語注： under the sofa：ソファの下で／back door：裏口のドア

The key I found under the sofa opens the back door.

a. I から始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

6

語注： art class：美術の授業／hang on the wall：壁に掛かっている／beside：〜のそばに

The pictures the children drew during art class now hang on the wall beside the classroom door.

a. the children から始まる関係節について、その範囲・先行詞・節内での関係を一つの修飾関係として示せ。

b. 英文全体を日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The mechanic の中心となる mechanic であり、関係節の範囲は who repairs bicycles for local families である。この関係節全体が mechanic を説明し、「地元の家族のために自転車を修理する修理工」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では、主格の関係代名詞 who 自身が主語として働き、repairs が述語、bicycles が目的語となる。who は先行詞 mechanic に対応しており、「その修理工が自転車を修理する」という関係が成立する。for local families は、この文では修理の対象となる自転車の持ち主を特定するのではなく、誰のために修理するのかを表すものとして読む。

関係節は families で終わり、続く works から主節の述語に戻る。The mechanic who repairs bicycles for local families 全体が主節の主語であり、works at a small shop near the station がその修理工について述べる内容である。near the station は a small shop を説明し、店の場所を示している。

〈〈The mechanic〉〔who repairs bicycles (for〈local families〉)〕〉 works (at〈a small shop〔near〈the station〉〕〉).
S　V　M

S “The mechanic who repairs bicycles for local families” / 主節 S / 先行詞は mechanic。who から families までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “works” / 主節 V / 関係節が families で終わり、主節の works に戻る。
M “at a small shop near the station” / 働く場所 / 駅の近くにある小さな店で働く。near the station は shop を説明する。

〈〈The mechanic〉〔who repairs bicycles (for〈local families〉)〕〉 works (at〈a small shop〔near〈the station〉〕〉).
S　V　O　M

S “who” / 関係節 S / 主格 who 自身が主語。先行詞 mechanic に対応する。
V “repairs” / 関係節 V
O “bicycles” / 関係節 O / 修理する対象は bicycles。
M “for local families” / 修理の受益者 / 地元の家族のために修理する。関係節は families で終わる。

b. 全文和訳

直訳 地元の家族のために自転車を修理するその修理工は、駅の近くにある小さな店で働いている。

満点の訳 地元の家族向けに自転車を修理しているその修理工は、駅近くの小さな店で働いている。

2

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The letter の中心となる letter であり、関係節の範囲は that the manager sent to every employee である。この関係節全体が letter を説明し、「その管理者が従業員全員に送った手紙」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では the manager が主語、sent が述語となる。目的格の関係代名詞 that は sent の目的語として先行詞 letter に対応し、「その管理者が手紙を送った」という関係が成立する。to every employee は手紙を送った相手を表しており、that 自身が関係節内の主語になるわけではない。

関係節は employee で終わり、続く contains から主節の述語に戻る。The letter that the manager sent to every employee 全体が主節の主語であり、contains detailed instructions for the upcoming office move がその手紙について述べる内容である。for the upcoming office move は detailed instructions に結び付き、何のための指示なのかを示している。

〈〈The letter〉〔that 〈the manager〉 sent (to 〈every employee〉)〕〉 contains
S V

〈〈detailed instructions〉〔for 〈the upcoming office move〉〕〉.
O

S “The letter that the manager sent to every employee” / 主節 S / 先行詞は letter。that から employee までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “contains” / 主節 V / 関係節が employee で終わり、主節の contains に戻る。
O “detailed instructions for the upcoming office move” / 主節 O / 手紙に含まれる詳しい指示。for 以下は指示の対象となるオフィス移転を表す。

〈〈The letter〉〔that 〈the manager〉 sent (to 〈every employee〉)〕〉 contains
O S V M

〈〈detailed instructions〉〔for 〈the upcoming office move〉〕〉.

O “that” / 関係節 O / 目的格 that は sent の対象で、先行詞 letter に対応する。
S “the manager” / 関係節 S / 手紙を送った主体は the manager。
V “sent” / 関係節 V / sent は過去の送付を表す。
M “to every employee” / 送付先 / 送付先は従業員全員。関係節は employee で終わる。

b. 全文和訳

直訳 その管理者がすべての従業員に送った手紙には、今後予定されているオフィス移転のための詳しい指示が含まれている。

満点の訳 管理者が従業員全員に送った手紙には、予定されているオフィス移転に向けた詳しい指示が記されている。

3

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The workshop の中心となる workshop であり、関係節の範囲は where the artist makes wooden toys である。この関係節全体が workshop を説明し、「その芸術家が木製のおもちゃを作る工房」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では the artist が主語、makes が述語、wooden toys が目的語となる。関係副詞 where は主語や目的語の代わりではなく、先行詞 workshop と「その芸術家がおもちゃを作る場所」という関係を結び付けている。makes の対象は wooden toys であり、workshop はその製作が行われる場所として対応している。

関係節は toys で終わり、続く is open to visitors every Saturday afternoon から主節の述語に戻る。The workshop where the artist makes wooden toys 全体が主節の主語であり、その工房が毎週土曜日の午後に訪問者へ公開されていることを述べている。every Saturday afternoon は主節の is open に結び付き、工房が公開される時間を表しており、おもちゃを作る時間を指定しているわけではない。

〈〈The workshop〉〔where〈the artist〉(S) makes〈wooden toys〉〕〉 is (V)

〔open (to visitors)〕(C) (every Saturday afternoon)(M).

S “The workshop where the artist makes wooden toys” / 主節 S / 先行詞は workshop。where から toys までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “is” / 主節 V / 関係節が toys で終わり、主節の is に戻る。
C “open to visitors” / 公開状態 / open to visitors 全体で、訪問者に公開されている状態を表す。
M “every Saturday afternoon” / 公開時間 / 毎週土曜日の午後。関係節内の makes ではなく、主節の is open を説明する。

〈〈The workshop〉〔where(M)〈the artist〉(S) makes(V)〈wooden toys〉(O)〕〉 is 〔open (to visitors)〕 (every Saturday afternoon).

M “where” / 関係節内の場所 / where は先行詞 workshop に対応し、おもちゃを作る場所を示す。
S “the artist” / 関係節 S
V “makes” / 関係節 V
O “wooden toys” / 関係節 O / 製作する対象は wooden toys。関係節は toys で終わる。

b. 全文和訳

直訳 その芸術家が木製のおもちゃを作る工房は、毎週土曜日の午後、訪問者に公開されている。

満点の訳 その芸術家が木のおもちゃを制作する工房は、毎週土曜の午後に見学できる。

どちらの訳も、関係節が workshop を説明し、その名詞句全体が主節の主語になる関係を保っている。makes は現在形で、その工房で行われる製作活動を表し、is open は工房の公開状況を表している。公開されていることと、実際に誰かが訪問したことは区別して読む。

4

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The day の中心となる day であり、関係節の範囲は when the new swimming pool opened である。この関係節全体が day を説明し、「新しいプールが開業した日」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では the new swimming pool が主語、opened が述語となる。opened はこの文では目的語を伴わず、「開業した」という意味を表している。関係副詞 when は主語や目的語の代わりではなく、先行詞 day と「そのプールが開業した時」という関係を結び付けている。

関係節は opened で終わり、続く was important to many families in the neighborhood から主節の述語に戻る。The day when the new swimming pool opened 全体が主節の主語であり、その日が近隣の多くの家族にとって重要だったことを述べている。in the neighborhood は、この文では many families を説明し、どの地域の家族なのかを示すものとして読む。

〈〈The day〉〔when〈the new swimming pool〉opened〕〉 was
S
V

〔important (to〈many families〔in〈the neighborhood〉〕〉)〕.
C

S “The day when the new swimming pool opened” / 主節 S / 先行詞は day。when から opened までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “was” / 主節 V / 関係節が opened で終わり、主節の was に戻る。
C “important to many families in the neighborhood” / 主節 C / その日が近隣の多くの家族にとって重要だったことを表す。in the neighborhood は families を説明する。

〈〈The day〉〔when〈the new swimming pool〉opened〕〉 was 〔important (to〈many families〔in〈the neighborhood〉〕〉)〕.
M　S　V

M “when” / 関係節内の時 / when は先行詞 day に対応し、プールが開業した日を示す。
S “the new swimming pool” / 関係節 S / 実際の主語は the new swimming pool。
V “opened” / 関係節 V / opened は目的語を伴わず、開業したという過去の出来事を表す。関係節は opened で終わる。

b. 全文和訳

直訳 新しいプールが開業した日は、近隣地域の多くの家族にとって重要だった。

満点の訳 新しいプールがオープンした日は、近所の多くの家族にとって大きな意味を持つ日だった。

どちらの訳も、関係節が day を説明し、その日について主節が述べる関係を保っている。opened と was important はともに過去形であり、プールの開業と、その日が家族たちにとって重要だったことを表している。ただし、なぜ重要だったのか、その日にどのような行事が行われたのかは英文に示されていないため、訳に付け加えない。

5

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The key の中心となる key であり、関係節の範囲は I found under the sofa である。この関係節全体が key を説明し、「私がソファの下で見つけた鍵」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では I が主語、found が述語となる。found は「〜を見つけた」という意味の他動詞であり、その目的語に当たるものが先行詞 key に対応している。原文には目的格の関係代名詞が書かれていないが、先行詞と found の目的語との関係から、省略された基本形だと判断できる。under the sofa は found に結び付き、鍵を見つけた場所を表している。

関係節は sofa で終わり、続く opens から主節の述語に戻る。The key I found under the sofa 全体が主節の主語であり、opens the back door がその鍵について述べる内容である。関係節内の found と主節の opens を区別することで、鍵を見つけた出来事と、その鍵が持つ働きを正確に読み取れる。

〈〈The key〉〔I found (under 〈the sofa〉)〕〉 opens 〈the back door〉.
S V O

S “The key I found under the sofa” / 主節 S / 先行詞は key。I から sofa までの関係節を含む名詞句全体が主語。
V “opens” / 主節 V / 関係節が sofa で終わり、主節の opens に戻る。鍵がドアを開ける機能を表し、実際の解錠は断定しない。
O “the back door” / 主節 O / 鍵が開けられる対象は the back door。

〈〈The key〉〔I found (under 〈the sofa〉)〕〉 opens 〈the back door〉.
S V M

S “I” / 関係節 S / 実際の主語は I。先行詞 key の直後から関係節が始まる。
V “found” / 関係節 V / found の目的語は先行詞 key に対応する。目的格関係代名詞は原文に書かれていない。
M “under the sofa” / 発見場所 / under the sofa は found に結び付く。関係節は sofa で終わる。

b. 全文和訳

直訳 私がソファの下で見つけた鍵は、裏口のドアを開ける。

満点の訳 私がソファの下で見つけた鍵は、裏口のドアを開けることができる。

どちらの訳も、関係節が key を説明し、その名詞句全体が主節の主語になる関係を保っている。found は過去形で鍵を見つけたことを表し、opens は現在形でその鍵が裏口のドアを開ける働きを持つことを表している。実際にその鍵を使ってドアを開けたという出来事までは述べていない。

6

a. 関係節の修飾関係

先行詞は The pictures の中心となる pictures であり、関係節の範囲は the children drew during art class である。この関係節全体が pictures を説明し、「子どもたちが美術の授業中に描いた絵」という名詞のまとまりを作っている。

関係節内では the children が主語、drew が述語となる。drew は「〜を描いた」という意味の他動詞であり、その目的語に当たるものが先行詞 pictures に対応している。原文には目的格の関係代名詞が明示されていないが、drew の対象が pictures であることから、省略された基本形だと判断できる。during art class は drew に結び付き、絵を描いた時間を表している。

関係節は class で終わり、続く now hang on the wall beside the classroom door から主節の述語に戻る。The pictures the children drew during art class 全体が主節の主語であり、now hang が絵の現在の状態を表している。on the wall beside the classroom door は、この文では絵が掛かっている場所を表し、教室のドアのそばにある壁を指すものとして読む。

〈〈The pictures〉〔〈the children〉(S) drew (during 〈art class〉)〕〉 now (M) hang (V)

(on 〈the wall 〔beside 〈the classroom door〉〕〉(M)).

S “The pictures the children drew during art class” / 主節 S / 先行詞は pictures。the children から class までの関係節を含む名詞句全体が主語。
M “now” / 現在の状態 / now は主節の hang に結び付く。
V “hang” / 主節 V / 関係節が class で終わり、主節の hang に戻る。
M “on the wall beside the classroom door” / 絵が掛かる場所 / 本教材では beside the classroom door が wall を説明する。絵の位置を直接限定する別読も可能だが、指定対象は異なる。

〈〈The pictures〉〔〈the children〉(S) drew (V) (during 〈art class〉(M))〕〉 now hang (on 〈the wall 〔beside 〈the classroom door〉〕〉).

S “the children” / 関係節 S / 実際の主語は the children。先行詞 pictures の直後から関係節が始まる。
V “drew” / 関係節 V / drew の目的語は先行詞 pictures に対応する。目的格関係代名詞は原文に書かれていない。
M “during art class” / 絵を描いた時 / during art class は drew に結び付く。関係節は class で終わる。

b. 全文和訳

直訳 子どもたちが美術の授業中に描いた絵は、今、教室のドアのそばの壁に掛かっている。

満点の訳 美術の授業で子どもたちが描いた絵が、現在、教室のドアの横の壁に飾られている。

どちらの訳も、関係節が pictures を説明し、その名詞句全体が主節の主語になる関係を保っている。drew は過去形で絵を描いた出来事を表し、now hang はその絵が現在壁に掛かっている状態を表している。

なお、本教材では beside the classroom door が壁そのものの位置を説明すると読むが、絵が掛かっている位置を直接限定する読みも自然である。前者は壁の位置を、後者は絵の位置を指定するため、細かな配置関係まで必ず一致するとは限らない。また、絵を描いた理由や、いつ壁に掛けられたのかは原文からは分からないため、訳に付け加えない。